

ネオニコチノイド系農薬削減に向けた各地の 取り組み実践集作成

NPO 法人ダイオキシン・環境ホルモン対策国民会議

水野玲子・植田武智・中下裕子・御園 孝・黒田洋一郎・田坂興亜

I. ネオニコチノイド系農薬問題の現状

ネオニコチノイド系農薬とは、90年代以降に日本をはじめ世界で使用され始めた農薬であるが、世界各地でミツバチ大量死などの被害が発生し、その危険性が注目された。2013年末、EUは予防原則を適用してネオニコチノイド系農薬3成分の一時使用中止したが、日本では逆にこの農薬の残留基準緩和の動きが活発化している。ネオニコチノイド系農薬の生態系へ影響はミツバチだけでなく鳥類にも及んでおり、国際自然保護連合（IUCN）は2014年6月、ネオニコチノイド系農薬の生態系全体に及ぼす影響の甚大さに警鐘を鳴らした。

II. 活動の目的

2013年～14年に、ネオニコチノイド系農薬の知識普及のため、九州南部、新潟、兵庫、秋田、福島など各地で学習会、講演会、交流会、視察を行った。国レベルでのネオニコチノイド系農薬削減の動きはまだ見られないが、確実に地方では身近な生態系を守るためにネオニコチノイド系農薬削減をしようとする機運が盛り上がってきた。今回の活動で、各地の現状を取材または、直接訪問することが出来なかった地域につ

いては、さまざまな方法で情報を集めた。集めた情報は「脱ネオニコリポート 2013-2014」としてまとめた（図1）。

III. 各地のネオニコチノイド系農薬削減への取り組み

ネオニコチノイド系農薬の生態系や人間に与える危険性について、情報と理解が広まり、ミツバチだけでなく、鳥を守るためにネオニコチノイド系農薬を削減しようとする動きができた（表1）。新潟県の佐渡市ではトキを守るためにコメについて90%以上のネオニコチノイド系農薬の使用を削減した。また、生協などでも削減目標農薬の中にネオニコチノイド系農薬を入れるなどの新しい動きもでてきた。注目されたのは、群馬県渋川市のようにネオニコチノイド系農薬だけでなく、有機リン系農薬を使用しない農業を進める認定制度を自治体レベルで立ち上げた動きである。

新しい取り組みを始めた生協としては、ネオニコチノイド系農薬3成分を「削減目標農薬」の対象にしたパルシステム（水田用ネオニコチノイド系農薬から先に削減）、農作物すべてのネオニコチノイド系農薬ゼロを目指すよつ葉生



図1 脱ネオニコリポート．ネオニコチノイド系農薬削減をめぐる各地の動き．2013-2014

表1 ネオニコチノイド系農薬削減 各地の動き ー主な事例

ネオニコ削減 各地の動き ー主な事例	
バルシステム	ネオニコ3成分を削減目標農薬の対象に
生活クラブ	独自に厳しい残留基準値を設定
よつ葉生協	2013年、コメ生産でネオニコ使用中止
あいコープみやぎ	コメを始め野菜・果樹のネオニコ削減も目指す
コープ自然派	1等米も2等米も同じ価格で生産者から購入
新潟県佐渡市	トキのために水稻のネオニコ使用9割削減
福井県越前市	コウノトリを呼び戻す「環境調和型農業」開始
兵庫県豊岡市	「コウノトリを育む農法」と減農薬の試み
群馬県渋川市	環境に配慮した新たな農法「選別農業農法」

協、コメをはじめ野菜や果樹のネオニコチノイド系農薬削減も目指すあいコープみやぎーなどが先進的な取り組みの例である。

IV. 今後に向けて

北海道は、今後日本の食料生産にとって重要

な地域であるが、同時に全国で最もネオニコチノイド系農薬の出荷量が多い地域である。しかし、ネオニコチノイド系農薬に関する知識が広まっておらず、ミツバチ大量死やスズメの激減が続いている。ネオニコチノイド系農薬削減の動きが広がることを目指して活動したい。

24th Pro Natura Fund Domestic Activity

Create a booklet on the efforts towards reduction of neonicotinoid pesticides of various regions of Japan.

MIZUNO Reiko, UEDA Takenori, NAKASHITA Yuko,
MISONO Takashi, KURODA Youichiro and TASAKA Koa

